
中北海道地区

会長 五十嵐秀彦

各地区活動報告（WEB）に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇俳句研究交流句会 令和6年8月24日 札幌市 参加者：50名

各会員の自由な発言と新会員の入会機会を作る目的を兼ねて開催

◇顧問・三役・選者の会 令和6年10月27日

札幌市にて参加者9名にて開催、現状報告始め今後の事業方針等を説明、
中間での状況に対する確認を行なった

◇俳句カフェ 令和6年11月4日 " 参加者：58名

今年度より開催、新会員の入会促進のため SNS などにより広範囲の PR を
行っている

◇地区総会 令和7年2月1日 " : 25名（委任状52名）

新役員を選出例年の議題の承認を得る

新年交礼会 " " " : 24名

◇俳句大会 令和7年4月7日 " " : 50名

道内文学のデータ化についての講演と道内各地から投句総数438句、
116名の応募があった

俳句賞表彰 上記同会場にて顕彰式を実施

道内各地からの応募総数22編あった

同大会・懇親会 令和7年4月7日 " " : 37名

◇青のフロント句会

偶数月第二木曜日開催 札幌市内にて、参加者約20名

会員主体の句会だが広範囲に非会員の参加も可能にしている

(F よしと)

東北海道地区

会長 石川 青狼

◇第2回くしろ元町フットパス句会 8月17日(土)、参加33名

1位 笑えば揺れる青年団旗秋ざくら 菅原 稊子

◇第23回大とかち俳句賞全国俳句大会 9月21日(土) 帯広市

東北海道現代俳句協会賞

夏雲や臍から伸びる命綱 菅原 稊子

優秀賞 槍投げの槍さびしかり夏の雲 粥川 青猿

佳作 蜘蛛の糸あの雲間からほつれたか 中村きみどり

ふるさとは細谷源二と薯の花 松原 静子

◇第76回釧路市芸術祭市民俳句大会 10月20日(日) 釧路市

1位 はまなすの実や晩年がはちきれそう 菅原 稊子

◇夕日フットパス 11月2日(土)

灯台記念日いいねと秋夕焼 小飼 紫香

◇第61回現代俳句全国大会 11月16日(土) 奈良市

秀逸賞 村という大きな樞夏の雲 粥川 青猿

佳作 傘立てに杖ある不安昭和の日 中島 土方

◇フットパス句会短冊展

7年2月5日(水)～7日(金) 釧路市役所展示ホール 46点

◇第34回北海道現代俳句大会 6月8日(土) 釧路市

投句数546句、大会参加者数53名

講師：俳句集団【itak】代表、俳誌「ASYL(アジール)」代表、
中北海道現代俳句協会会長・五十嵐秀彦氏

「飛ばない鳥は飛ばない鳥～俳句を〈読む〉ということ～」

第1位 早春を食べる分だけ採りに行く 石井 美髯

第2位 春炬燵みんな途中でみなくなる 松山 りさ

第3位 風に散る手紙が蝶になる処方 中西 芳之

◇「初めての俳句教室」(7年4月より「土曜俳会」と改名)

毎月第一土曜日開催 釧路市立中央図書館

6年 8～12月(4回) 睡蓮の波乗り巧み春採湖 三島千寿姫

7年 1～5月(5回) 薫風やつかみぐあひは母の乳 中村 凡

◇月例句会 毎月第三木曜日、釧路市交流プラザさいわい

7月 パセリ噛む完結編の肩すかし 斉藤 郁子

9月 上り月キリンの首の骨の数 中村きみどり

10月 とどくまで継ぎ足す切手うろこ雲 菅原 稔子

2月 ちぐはぐに残る錠剤春立ちぬ 飯沼 風華

3月 ほうけた人とほうけたように春を待つ 佐藤かよ子

5月 屈性と言うらしい君芽吹待ち 石井ゆかり

◇会員発行 俳誌「幻日」第3号(6年12月)、第4号(7年6月)

◇会報 第18号(6年7月)、第19号(7年1月)

(鮎橋郁香)

北北海道地区

会長 橋本 喜夫

◇第36回総会

令和7年4月20日(日)

旭川市ときわ市民ホールにて開催。出席者15名 役員の改選

◇第35回北北海道現代俳句大会

令和7年4月20日(日) 総会終了後

旭川市ときわ市民ホール

講演 中北海道現代俳句協会 籬 朱子

演題「猿蓑ノート」

出席者28名(出句者63名)

大会賞をはじめとする高得点の作品

雁渡る星座のやうな廃線図 藤原ハルミ

流氷の近づく醤油差しに罅 村 一草

孤独よりひとりがすこしあたたかし 橋本 喜夫

冬星を睫毛にのせて逢いに来し 丹下 美井

地吹雪がテールランプへしがみつく 小山内 杏

マスターの磨くサイフォン鳥渡る
雪を搔き搔いては老いて日が暮れて

風花 美絵
田中 徹男

◇第34回北海道現代俳句大会

(東北北海道現代俳句協会主催)
令和7年6月8日(日) 釧路市
北北海道現代俳句協会会員の入賞作品
木の根明く仔牛の耳にはや名札
人の輪の中がふるさと蓬餅

三国 眞澄
西 川良子

◇吟行

令和6年9月1日(日) 旭川市あさひかわ北彩都ガーデンを吟行～旭川市
市民活動センターで句会
参加者 参加者28名のうち北現俳の会員12名
句会作品(五十音順)

虫潰す指が菩薩の指に似て
花野風ふいに船乗りになりたし
欠けてあるレンガの倉庫つづれさせ
さんざめく子らの声満ち晩夏光
青胡桃忘れぬように地に保存
女郎花句繕ひする立ち話
駅ホールがらんと秋の日と少女
秋の雲吟行会へどンドン歩く
生き残り死に残りとや秋の蝶
散るものは自白のやうに風の秋
団栗の青し鴉の鳴き止まぬ
トリガーはあかとんぼ潮時の恋
韃靼の空色もらふ蜻蛉の眼

青山 酔鳴
五十嵐秀彦
井口寿美子
かさいともこ
加藤ひろみ
小泉 晃治
佐々木 宏
十河 宣洋
西川 良子
橋本 喜夫
柊 月子
藤原ハルミ
村 一草

◇顕彰 該当者なし

◇会報 令和6年12月31日 第60号発行

(加藤ひろみ)

岩手地区

会長 名久井清流

◇第9回通信句会

令和6年7月 参加者31名
選者特選句

翠巒や魁夷の白馬よぎりけり
蜘蛛の子の間者のやうに放たるる
新涼や同じ事聞く夫と居る
ヒトはみな海へ帰れと海鞘を食う
落蟬のぢちと鴉を驚かす

安部 克詠
五日市明子
武田 稲子
夏谷 胡桃
名久井清流

◇総会・句会

令和7年3月29日 参加者20名

選者特選句

仮設解きまた仮設組む弥生尽
耳とほし顔を寄せ合ふ彼岸かな
シュレッダーのくずの秘密やぼたん雪
春炬燵知つてしまった猫と居る

安部 克詠
四日市洋子
小笠原祐子
田代 節子

◇岩手県現代俳句協会創立40周年記念俳句大会（募集句のみ）

令和7年4月 参加者34名

大会賞 ビールが冷えてないパンプス脱いだのに 小笠原祐子
選者特選句 人間に戻りサーファー歩き出す 小野寺東子
父の日や机に足を乗せてみる 上野 方水
何ひとつ動かぬ真昼蟻地獄 上野 方水
万緑を薄き青とし少女逝く 中野 楓子

◎大会受賞作品抄 会報誌『現代俳句いわて』No.82のP10～11参照

◇会報誌『現代俳句いわて』

No.82（令和6年12月15日発行）

令和6年度総会記、句会作品抄、会員の今年的一句＋コメント、大会受賞作品抄、新会員の作品と所感、鎌倉道彦句集『伏流水』から10句鑑賞ほか。

（五日市明子）

秋田地区

会長 森田千枝子

◇「俳句を語る会」の実施（7月20日）10名参加

雑詠一句、読込「旅」一句を投句。全員で意見・感想等を述べあった。

◇令和6年度第30回秋田県現代俳句協会作家賞

応募作品 10編（各15句）。審査員5名（12月21日）

作家賞 「春の水」 佐藤 君子
準作家賞 「悼む秋」 鈴木 修一
準作家賞 「やはらかき日々」 片倉 弓
入選 「大冬木」 田村 陽子

作家賞受賞作品より三句引く

樽洗う顔に弾ける春の水
ががんぼの二の足踏んでいるばかり
恋なんて縁なし軒の赤南蛮

◇令和7年度定例総会（3月8日）会報96号発行

事業計画等、承認される。会員数43名

◇第40回現代俳句秋田大会の実施。投句208句（3月8日）

加藤昭子選 特選

親方と少し離るる三尺寝
深雪晴寛解の子に花を選ぶ
眼も耳も敏く勤労感謝の日

工藤 進
片倉 弓
須田亜希子

佐藤君子選 特選

マフラーの長きに巻かれ生き上手
着脹れの母の口癖「まっいいか」

三浦 静佳
加藤 昭子

古日記曲がり損ねた角がある 岸部吟遊 特選	加藤 昭子
字の儘消えてゆく村稻架の骨 十二月八日ペラッペラな客座布団 レノン忌や銃後の父の無言なり	小林万年青 森田千枝子 後藤 平次
現代俳句協会賞	
古日記曲がり損ねた角がある	加藤 昭子
秋田県現代俳句協会賞	
利き耳の方に寄り添ふ冬うらら	今野サト子
秋田県芸術文化協会賞	
ひとりずつ小春を抱いても忘れ	森田千枝子
秋田県俳句懇話会賞	
撥の音は雪崩の震え津軽三味	小林万年青
秋田県現代俳句協会賞 (他 2 2 句)	
お互に老いを称えて門礼者	戸澤 陽子
からす瓜惚けても父に上座あり	小林万年青
深雪晴寛解の子に花を選ぶ	片倉 弓

◇俳句を語る会「写真俳句」の実施 6月14日(12名)

(片倉 弓)

宮城地区

会長 渡辺誠一郎

各地区活動報告 (WEB) に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇吟行会

実施日：令和6年7月14日 参加者数：21名

吟行場所：塩竈市 (本塩釜駅周辺、旧ゑびや旅館・芭蕉止宿の地、湯屋跡、
勝画楼)

会場：塩竈市民交流センター 遊ホール

〈高得点句〉

7点	旧ゑびや旅館金魚は今を生く	浅沼真規子
6点	神竈の錆の歳月朝曇	平山 北舟
6点	台座のみ残る灯台蟻走る	星 節子
5点	藻塩焼神事小声の裏事情	小関 桂子
4点	祭禮の幟は高く土用東風	川名まこと
4点	灯台は未完のままに夏の草	坂下 遊馬
4点	七月や芭蕉宿りし跡に佇つ	佐々木和子
4点	釜に神しおからとんぼの時々来	本木 朱実
	夏詣参道の坂に表裏	伊澤てつを
	梅雨晴や車篋筒に写る空	黒河内玉枝
	ぎいと鳴る長き幟に熱き風	小村 寿子
	鬼房の句碑裏に棲む夏の闇	嶺岸さとし
	神釜の水はあふれず夏祭	渡辺誠一郎
	釜神の太き走り根梅雨の空	上田由美子

盗人は塩釜さへも竹落葉
 蟻の列勝画楼へと参じけり
 樹の陰の涼風刹那勝画楼
 空梅雨やゑびやの欄干に芸妓
 梅雨の明け闇市跡の白さかな
 七曲先の先まで木下闇
 露草を跨ぎ後からついてゆく

大久保和子
 鈴木 三山
 赤間マリ子
 大坂 宏子
 大槻 泰介
 菊地 幸子
 庄子 紅子

◇第38回現代俳句東北大会（山形大会、令和6年9月30日）

当該大会は紙上大会。（投句数616句）

（地区会員入賞者）

▽大会佳作賞

箱庭の穴は防空壕である
 風青し大樹の瘤は神の貌
 ミサイルも西日も入るる日本海

高橋 彩子
 浅沼眞規子
 平山 北舟

▽対馬 康子特選

箱庭の穴は防空壕である
 惚れ惚れとした艶であり油虫

高橋 彩子
 小野 道子

▽成田 唯央特選

振花や童顔多き特攻兵

嶺岸さとし

▽船越 みよ特選

九穴の乾び覚ゆる炎暑かな

兵藤 康行

▽四戸美佐子特選

カーブミラーの己に猛る夏鴉

小関 桂子

▽五日市明子特選

鬼やんま子らを引き連れ巡行す

平山 北舟

▽渡辺誠一郎特選

ミサイルも西日も入るる日本海

平山 北舟

▽成田 一子特選

東北の地べたかがやく雲の峰

齋藤 伸光

▽鈴木 三山特選

漂ひて海月は母性透きとほる

庄子 紅子

▽坂下 遊馬特選

雲の峰魚の記憶に羽がある

佐藤 みね

▽大類つとむ特選

星生るる蝌蚪が手足を動かせば

丸山千代子

▽畠山カツ子特選

父母亡くも我も帰省子山河あり

兵藤 康行

▽堀 尚子特選

風青し大樹の瘤は神の貌

浅沼眞規子

◇定時総会

令和7年3月29日、仙台市生涯学習支援センターにおいて開催。

会員30名が参加、事業報告・事業計画・役員改選等について満場一致で承認。総会終了後、2句出しの句会を開催。（雑詠及び席題「後部座席」）

〈高得点8句〉

10点 花束を後部座席に離任せり

伊澤てつを

10点 春の月後部座席の子の無口

千葉 和珠

8点 風船を持たされて佇つゴリラの前

平山 北舟

6点 後部座席に骨壺かかぐ春の海

黒河内玉枝

6点 靴底はいつも片減り初桜

坂下 遊馬

6点 鍵穴を擦り抜けてくる蒙古風

高橋 薫

5点 姦しき後部座席の花衣

成田 一子

5点 春の虹後部座席に傘ひとつ

嶺岸さとし

◇研修会・句会

実施日：令和7年6月8日 参加者数：24名

研修名：夏季研修会・句会

会場：仙台市青葉区中央市民センター

内容：「意識とは何かーてんかん学からの考察」と題した大槻泰介氏による講演。テーマは、意識を失うということについて、長年てんかん治療に携わってきた医師の視点からのアプローチ。てんかん発

作のメカニズムや脳活動の変化については、脳の解像分析により
解明されつつあるとの現況。講演後、2句出しの句会を開催（雑
詠及び席題「鉛筆」）。

〈高得点句〉

10点	海馬また嘶いており髪洗う	川名まこと
8点	青嵐止みさう馬の長睫毛	日下 節子
7点	色鉛筆で描けぬ色あり二重虹	菊池 修市
6点	鉛筆の記憶が夏の大樹描く	小田島 渚
6点	向日葵畑色鉛筆の黄が足りぬ	平山 北舟
6点	晩学の道はでこぼこ葱坊主	丸山千代子
5点	神々の涙かガザの早星	嶺岸さとし
4点	鉛筆一本貰って帰った運動会	伊澤てつを
4点	手廻しの鉛筆削り麦の風	本木 朱実
	夏季講習「海馬」を赤鉛筆で書く	浅沼真規子
	戦争はいらぬがある薔薇にトゲ	大久保和子
	鉛筆をかじる子犬と夢みたし	大槻 泰介
	着水の水輪を崩す通し鴨	小野寺みち子
	鉛筆はテストの答えアマリリス	大坂 宏子
	鉛筆の力む数独水母めく	小関 桂子
	境なき戦前戦後けしの花	坂下 遊馬
	色鉛筆で描きし父と雲の峰	島 松柏
	えんぴつの転がる畳梅雨湿り	新藤 綾子
	夏期講座鉛筆で描く海馬かな	鈴木 三山
	蜘蛛の囿の歪んでいても美しき	高橋 薫
	削らなかつたままの名前入り鉛筆	寺田 文武
	鉛筆を耳の棟梁青葉風	丸山みづほ
	やわらかき鉛筆やわらかき心	水月 りの
	墓守の肥えて名のなし金魚かな	渡辺誠一郎

◇会報発行

宮城県現代俳句協会 NEWS 2024.9 No.50

発行内容・令和6年度宮城県現代俳句協会総会・事業計画、予算等

- ・総会句会
- ・一句一葉
- ・塩竈吟行記「盛りだくさんの吟行会」

宮城県現代俳句協会 NEWS 2025.5 No.51

発行内容・令和7年度宮城県現代俳句協会総会・事業計画、予算案、役員
改選、規約改正

- ・総会句会
- ・「可笑しい虚子の俳句のいくつか」
- ・一句一葉（テーマ、可笑しみ）

（坂下遊馬）

山形地区

会長 大類つとむ

各地区活動報告（WEB）に記載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇会報の発行 ・第31号発行 7月 ・第31号発行 12月

◇吟行会

・山形市洗心庵（11月10日） 7名参加

高点句

紅葉の一樹とゆれず人動く	大類つとむ
ふつくらの鯉の背中にもみぢ散る	堀 尚子
膝立ての観音座る秋の庭	松浦 廣江
小流れの緩き静寂や返り花	木嶋 玲子
鯉肩を寄せ小春日の水の音	佐竹 伸一
ちょこちょこと冬の小蠅ら不老門	阿部 雅子

◇役員会並びに総会

・役員会 3月30日（日）13：00～ 山銀県民ホール

・総会 6月1日（日）13：00～ 山形テルサ

◇俳句会

・総会時俳句会（6月1日） 22名参加

高点句

母からの手紙の厚み牡丹咲く	梅木 啓子
春光やカーブミラーの多い村	大泉 秀明
代掻きや均し馴らして空の青	渡辺 竹女
この村で生まれし亀の花まみれ	うにがわえりも
還らざる人と日本蒲公英と	佐竹 伸一

◇その他

・山形県少年少女俳句大会（尾花沢市主催）への助成

・第38回現代俳句東北大会の運営（山形県担当）

（佐竹 伸一）

茨城地区

会長 高橋 和彌

◇第41回現代俳句茨城大会

会場 水戸市 県立青少年会館

開催日 令和6年7月15日

記念講演 『暖響』投句欄選者 江中真弓 先生

演題 『楸邨先生と作品』

事前応募句数 1212句 当日参加者 71名

事前応募句高点句

茨城県現代俳句協会会長賞

風光るはじめてもらふ背番号

笠原 真枝

高野ムツオ現代俳句協会会長賞

おさな児のことばにつばさ花は葉に	菊地 久子
佐川昌子茨城県俳句作家協会会長賞	
子が風邪をひくたび母となつてゆく	早瀬 貞夫
講師・江中真弓先生特選	
平和宣言の一言一句水を打つ	伊沢とよ子
みなもとは歌垣の峰春の水	野田 珠子
子はいつか父を超えゆく竜の玉	早瀬 貞夫
茨城県現代俳句協会会長特選	
初泣きの声ごとつつむバスタオル	早瀬 貞夫
父母逝きし瓦礫の山へ帰省かな	保坂 和郷
背なの子を夢ごとおろす夏座敷	早瀬 貞夫
当日句（席題：中）	
茨城県現代俳句協会会長賞	
海中へ届けと花を沖繩忌	菅原 仲江
高野ムツオ現代俳句協会会長賞	
透き通るひとりの時間水中花	宮地 久子
笹川昌子茨城県俳句作家協会会長賞	
水中花偽りおほきまつりごと	高野よしこ
講師・江中真弓先生特選	
一年の真ん中を行く蝸牛	小沼 悦子
残る蚊の残る力の中中に	安田 政子
透き通るひとりの時間水中花	宮地 久子
茨城県現代俳句協会会長特選	
水中花偽りおほきまつりごと	高野よしこ
今の世の古稀は中年アロハシャツ	大野ひろし
昭和史を背中で語る生身魂	笠原 真枝

◇第3 1回作品奨励賞

作品奨励賞 『いちご飴』星弘子

佳作賞 『慟哭』草俊風 『青田道』板羽未知子

◇茨城県現代俳句協会吟行会

開催日 令和6年8月20日

会場 水戸市植物公園

参加者 15名

当日高点句

秋暑し木漏れ日を吸う鯉の口

高橋 和彌

雨あとの草の匂ひや園秋暑

平野ばにら

睡蓮のいま鋭角に咲かむとす

白土 昌夫

◇茨城県現代俳句協会第3回地区別句会

開催日 令和6年3月5日

会場 守谷市長龍寺付近散策後句会

参加者 24名を予定も雪注意報で中止

第3回地区別句会は25年度県西地区で引き継ぎ開催

◇会報の発行

第147号～第148号を発行、本部を始め各地区協へ送付。

◇令和7年度通常総会

開催日 令和7年4月29日

会場 水戸市 県立青少年会館

参加者 30名 (委任含む、委任率72%)
報告・活動計画ともに満場一致で採択。
新入会員・中島登志夫氏を紹介の後、総会句会を実施
令和7年度通常総会句会高点句

囀りを浴びて上向く骨密度	根本菜緒子
うらかや猫に右利き左利き	佐藤 和子
一切の過去を語らず芽吹山	宮地 久子
誰よりも大きい母のしゃぼん玉	岡里 共子
駅に鳴るからくり時計春の昼	小松崎黎子
立ち上がる事も休息芋植える	高橋 和彌 (白土昌夫)

栃木地区

会長 中井洋子

各地区活動報告 (WEB) に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇第19回通信句会 令和6年6月～8月 (表彰70回俳句研究会)

投句者62名 選句者68名 (83%)

春光を蹴上げ嵯峨野の人力車	高田 栄子
黒牡丹崩れ手紙の一枚目	戸田富美子
染井吉野老いて置屋の女将めく	池澤 光子
太平洋横断が夢あめんぼう	斉藤 雅子
周波数を平和に合わせ鳥帰る	須田 初江

◇第70回俳句研究会 令和6年9月18日

きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 参加者26名

船頭の肩には触れず赤とんぼ	速水 峰邨
地図に沿い黒塀に沿い秋の蝶	増山 ちさ
残暑なお商家の軒の魔除け札	和田 浩一
百日草路地の記憶のこぼれ出す	遊座 純子
船頭の訛りたっぷり水の秋	橋本 尚子

◇第32回現代俳句色紙展 令和6年11月16日～17日

とちぎ岩下の新生姜ホール 参加者34名

一途とは青春どんどこ蟻の列	須藤火珠男
身のどこかほどけてゆきぬ夏の雨	大竹 照子
みたび黙禱八月の赤い月	和田 璋子
春愁を集めて牛の目の濡るる	北島 洋子
後期とは忙しきもの榎櫃の実	石川 和子

◇総会および新春俳句大会 令和7年1月19日

サンプラザ栃木 参加者総会24名 俳句会21名

鉛筆の芯の極太開戦日	中井 洋子
日向ぼこ輪郭線が溶けている	白井 正枝

◇第18回通信句会 5年5月～8月 (表彰第68回俳句研究会)

投句者61名、選句者67名 参加率82%

万緑や児の眼は宇宙船の窓	小川たか子
--------------	-------

夏景色クリックすれば激戦地
てにおはの知りたき一字紙魚のあと
助手席の母との時間麦の秋
逃げ水や自己を肯定しない距離
明日へのことば育む冬木の芽
落ちるため白を極める侘助は
佳境なり地酒猪鍋兜太論

石倉 夏生
五十嵐すず
池澤 光子
本間 睦美
水口 圭子
山野井朝香
石倉 夏生

◇第71回俳句研究会 令和7年4月3日

日光市民活動支援センター 参加者17名

菜種梅雨「この先日光」道標
桜二分文字美しき廻村誌
二宮堀の水音に混じる誰が春愁
花粉症追分地蔵には無縁
仏の座踏み尊徳の像拝む

中村 克子
佐々木輝美
小川たか子
本間 睦美
中村 國司

◇支部句会 県南支部・県西支部・宇都宮支部・栃木支部・上都賀支部

◇会報の発行

175号（R6年9月）～178号（R7年6月）

（水口圭子）

群馬地区

会長 堀越 胡流

各地区活動報告（WEB）に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇第14回紙上俳句大会

令和6年10月1日 応募作品 47名160句

風の座は亡夫に空けおく夏座敷
夕虹を子の渡り来よ渡り来よ
子に残す物は優しさ木の実降る

秋元 俱子
清水 里子
茂木 房子

◇第29回吟行句会

令和6年10月3日 前橋市、敷島公園バラ園、その周辺 参加者18名

露草や詩碑に生きてる朔太郎
その中のすがれし薔薇を見ていたり
人寄れば鯉口を開く秋の池

三島 梅子
中里 麦外
朝倉 裕子

◇令和7年度定期総会、講演会ならびに俳句大会

令和7年4月6日 群馬県庁昭和庁舎

第31回群馬県現代俳句協会大賞顕彰 「初さくら」清水 里子

講演会 参加者50名

「じゃんけんで負けて蛍に生まれたの」で知られる、文語調、口語調を駆使し多彩な表現方法、エスプリを内包し独自の俳句世界を確立した池田澄子氏を講師に講演会が開催されました。師・三橋敏雄の俳句を交え、自身のその俳句観について講演を頂きました。

第39回俳句大会 応募作品 49名174句

現代俳句協会賞

初空や雲まで行けるスニーカー

堀越 胡流

群馬県教育文化事業団賞

湯豆腐や親子の本音少しずつ

秋元 俱子

上毛新聞社賞

お年玉に手刀を切る反抗期

石井 紅楓

毎日新聞社前橋支局賞

歳月に取り残されて火吹竹

石原 道明

群馬県現代俳句協会賞

子等去りて穴のあきたる初景色

小山 泰子

◇会報発行

令和7年1月10日 No.73

(河合秀美)

埼玉地区

会長 杉本青三郎

◇第46回埼玉俳句大会 令和6年7月15日

会場：さいたま文学館 1F大ホール

講演：八木橋伸治先生 (玉川大学名誉教授)

演題 「俳句季語『相撲』と『相撲』の考現学」

応募総数：720句

当日参加：56名

《入賞作品上位10句》

くちびるはふたつで一つ春惜しむ

山崎 十生

仏法僧森は大きな耳を持つ

長谷川順子

曝書よりはらり昭和の領収書

増田 信雄

朧夜のまだ揺れてゐる父の椅子

石井 喜恵

よく歩く啓蟄の日のスニーカー

鈴木 砂紅

通勤電車おなかにリュック山笑ふ

河野はるみ

囀りの中に少女の国訛り

小山 敏男

百歳も射程圏なり柿若葉

飛永 鼓

深刻になっていません冷蔵庫

宮澤 順子

くちなわを見てきたばかり眼がきれい

山崎加津子

◇第22回吟行俳句大会 令和6年10月20日

会場：熊谷市立商工会館

当日参加：31名、投句数：62句

《入賞作品上位5句》

ラグビーボールたとえば秋愁の形

金子 斐子

上を向いて歩こう柿が甘いから

折原野歩留

銀杏は境内の外にも落ちる

田口 武

草の絮騎馬武者像の頬掠め

吉澤 祥匡

熊谷は秋を忘れていなかった

宮澤 順子

◇令和7年度定期総会 令和7年3月8日

会場：さいたま文学館 1F大ホール

《第22回埼玉県現代俳句大賞・表彰式》

☆大賞 「沁沁」 金子 和美
☆準賞 「胡椒瓶」 高木 宇大
☆準賞 「寧日」 田口 武

《一句会上位 5 句》

地雷無き国に生まれて青き踏む 高梨 武州
菜の花や支へることを支へとし 渡辺 智恵
鴨たちは白鳥に敬語をつかふ 田口 武
やわらかく目隠しをしてひな納む 折原野歩留
黄色から春が始まる啜みち 本橋 稀香

◇「俳句入門コース」開催

会場：さいたま文学館 講座室

- ・第1回 令和6年 9月21日
- ・第2回 令和6年10月12日
- ・第3回 令和6年11月 9日

◇会報発行

第87号（令和6年9月5日）、第88号（令和7年3月20日）

（中野博夫）

千葉県地区

会長 羽村美和子

◇令和7年度総会・席題句会

令和7年3月16日（日） 千葉市民会館

出席者38名。令和7年度より、総会と俳句大会を春と秋に分離することになった。

秋の俳句大会は、創立45周年記念俳句大会として、10月12日（日）に開催予定。

応募作品は、一般・大学生の部と高校生の部に分けて募集。

★席題句会 席題「燕」「詰」

上位入賞句

燕来る村へ雨戸を開けに行く 石井紀美子
燕来る詩と詩のはざま潜り抜け 平岡 育也
言語野を縦横無尽つばくらめ 長井 寛
燕にもシングルマザー風を切る 羽村美和子
遺伝子の縦に詰まりし葱真白 下村 洋子

◇秋の吟行会

令和6年10月27日（日） 上総国分寺跡・上総国分尼寺跡

句会場 市原市市民会館 参加者 24名

上位入賞句

回廊を対角線に爽籟来 遠藤 寛子
ちぐはぐな秋が来ている尼寺・僧寺 石井紀美子
吾亦紅男ふたりが触れている 高橋 宗史
コスモスが私をさらう時をさらう 三宅たくみ
天平の襲来人とは泡立草 木之下みゆき

◇令和6年度総会・俳句大会

令和6年3月17日(日) 千葉市文化センター
コロナ後の大会を昨年に引続き開催。出席者63名

★俳句大会【事前投句の部】

千葉県知事賞

たましいのはじめのみどり 芹薺 清水 伶

千葉県現代俳句協会賞

一月の一の字肩が凝っている 羽村美和子

千葉市長賞

退屈が象の背中に降りて春 蛭名 節昌

毎日新聞社賞

日の落葉月の落葉と掃き寄せる 森 孝子

★俳句大会【高校生の部】

千葉県現代俳句協会会長賞 鎌ヶ谷高校

青りんご知識の果実熟れなくて 長野 光希

俳句大会委員長賞 柏中央高校

風や持久走後の木乃伊たち 伊藤 晶

俳句大会実行委員長賞 長狭高校

先輩の青春残る椅子机 加藤 獅扇

★俳句大会【席題の部】題 陽炎・面

千葉県現代俳句協会会長賞

陽炎や地球が浮いている不安 前田 孝子

千葉県教育長賞

自画像の片面がないリラの冷え 池田 博臣

朝日新聞社千葉総局賞

B面へカチャリと替わり卒業す 遠藤 寛子

◇春の吟行会

令和7年4月30日(水) 東京谷中界限

句会場 本行寺(月見寺)

上位入賞句

惜春や時代の窪みにある谷中 森須 蘭

新樹光一茶の句碑は自然石 徳吉洋二郎

春惜しむ無声映画のごとき街 高橋 健文

多言語に揉まれ谷中の薄暑かな 保坂 末子

昭和の日炎小暗き煎餅屋 石井 稔

◇研究句会など

★津田沼研究句会 毎月第2火曜日13時～16時 2句事前投句
津田沼1丁目町会会館

★青葉研究句会 毎月第4木曜日13時～16時 3句事前投句
千葉市民会館

★柏研究句会 毎月第2土曜日13時～17時 7句当日投句
柏市・ハックルベリー書店

★君津研究句会 毎月第1木曜日13時～16時 3句事前投句
君津市生涯学習交流センター

★いすみ・安房研究句会 隔月第4日曜日12時30分～15時 5句事前投句

勝浦市・ふじや

★あしたば句会(青年部)

隔月不定期に、夏雲システムによる句会と吟行会を実施

★初心者講座(第3期)毎月第3土曜日13時～16時(年10回)

千葉市民会館

令和5年4月からの第1期10回を終了し、第2期、第3期と継続中

◇幹事会

定例幹事会 年4回 8・11・1・5月 船橋市勤労市民センター

臨時幹事会 令和7年4月 船橋市勤労市民センター

◇会報「現代俳句千葉」の発行

9・12・3・6月刊

154号～157号 B5版12ページ～16ページ

(羽村美和子)

東京都区

会長 山本 敏倅

◇令和6年度俳句大会・新入会員歓迎会 令和6年9月28日(土)

台東区民会館 今年度から毎年開催となった俳句大会は事前投句総数1068句。俳句大会の参加者76名、うち新入会員は9名。それぞれしっかりと自己紹介・抱負を述べていた。休憩後、一句持寄り句会を開催。「増田龍雨Ⅱ」と題して今野龍二幹事長による講話が行われた。

〈俳句大会上位入賞句〉

青虫をつまめば放課後の匂い	平川扶久美
雪だるまみんなに帰られてしまふ	田口 武
線香花火記憶が嘘をついてゐる	久下 晴美
べつたらを厚く人情嘶かな	長谷川はるか
骨ひとつひとつに名前春しぐれ	加那屋こあ
地球忌が来るかも知れぬ鳳仙花	石口 榮
水中花テレビの中の民主主義	川崎 果連

〈新入会員当日句〉

引き潮や水際に跳る鯿の群れ	石田 弥生
秋高し浅草寺には門三つ	さとうみなこ
少年は額より熟す天高し	山月 恍
秋乾きお肉を見つつお魚に	北山 星
十六夜や電気ブランとゆるりゆらり	米原 拓人
縄文の海はここから曼珠沙華	高矢 実來
曳舟の蕎麦割烹や秋日和	渡邊すみれ
ハロウィンのまだ濡れてゐる南瓜の瞳	田島 実桐
鳳仙花爆ぜ学舎に声湧きぬ	星野 愛

〈当日上位五句〉

銀座線降りて秋思に乗換へる	一井 魁仙
早すぎないか晩年も晩秋も	小高 沙羅

鬼灯の中よりつまみ出す昭和
危なげな地球に根付く草の花
一葉落つわりに気楽な孤独感

石口りんご
西本 明未
山口 紀子

◇令和7年度定時総会 令和7年3月15日(土)

台東区民会館 参加者53名 議長に土屋秀夫氏、副議長に松田圭子氏を選任。令和6年度事業報告、決算報告、監査の承認及び令和7年度事業計画、予算案、役員推薦の件など諸議案はすべて原案通り可決。

また、令和6年9月28日に俳句大会が成功裏に開催されたことが山本会長より報告された。休憩後、恒例の一句持寄り句会を開催。「芭蕉・兜太・シン現代俳句」と題して松田ひろむ顧問の講話が行われた。

〈当日上位五句〉

啓蟄や地下にガス管水道管
春風や外に出たがる銀座線
お節介やいて後悔して臍
金屏風三枚分の春愁
瀬祭や算盤ずくの国と国

石口 榮
釜田 二美
加那屋こあ
山本 敏倅
瀬藤 芳郎

◇春季吟行会(通信句会) 令和7年4月23日(火)

神田明神、湯島聖堂を吟行、後日通信にて投句・選句。43名参加

〈上位5句〉

甘酒の火照りを灰と恋みくじ
惜春や黒き柱の時間軸
学問を問うてみたとて飛花落花
万緑を額で受くる孔子像
春雨ににじむ異国語祈願絵馬

川目 智子
見目 千絵
松澤 雅世
菊池ひろこ
山口 紀子

◇高田馬場句会 年4回

令和6年7月2日・10月1日・令和7年1月14日・4月1日に実施。

兼題1句と席題1句。各回約30名の参加があった。

◇スクランブル通信句会 *都区協会員以外の投句歓迎。

隔月偶数月に開催。投句数当季雑詠3句。メール・FAX・郵便での投句可。

◇ビッグバン通信句会(新企画) *都区協会員以外の投句歓迎。

隔月奇数月に開催。投句数雑詠1句と兼題1句。ネットでの投句のみ。

◇各ブロックの行事

Aブロック吟行会 令和6年5月24日 あらかわ遊園 35名

〈上位3句〉

芒種かな親父座りのカンガルー
踏切を待ち草笛とすれちがう
もうかき氷食つとる幹事長

栗原かつ代
小湊こぎく
中内 火星

Bブロック吟行会 令和6年6月25日 川端龍子美術館 38名

〈上位3句〉

夏服の子の目象の目平和の目
そこここに龍が隠れている水無月
爆弾散華とんぼうが羽化するところ

石口りんご
山本 敏倅
石口 榮

Cブロック吟行会 令和6年11月7日 穴八幡・箱根山 32名

〈上位3句〉

陸軍の学徒還らず冬ざくら
煩惱の一つや二つ槐の実

栗原かつ代
青木 栄子

賽銭の濁いて響く神の留守 釜田 二美
Dブロック吟行会 令和6年10月14日 新宿御苑 39名

〈上位3句〉

地図読めぬ女どんぐり持ち歩く 岡崎 久子
秋蝶と同じ体温で自由 青木 栄子
透明な吐息十月さくらかな 栗原かつ代

◇会報発行

年4回定期刊行 第199号～第202号

(加那屋こあ)

甲信地区

会長 佐藤 文子

◇第37回紙上句会 61人参加 2024年8月～9月

特選句

秋尾敏選＝秋高くありダリの脚長き象	原田 宏子
大井恒行選＝言の葉の羽化のはじまる星月夜	岩井かりん
神野紗希選＝逝く時は夜に木の実の降るやうに	松下 勝昭
宮坂静生選＝銃持たぬ七十九年鰯雲	久根美和子
佐藤文子選＝廃校の窓を染めゆく秋夕焼	古畑 和
小林貴子選＝竜淵に潜みて家に帰られず	佐藤 文子
堤保徳選＝湿原は丈を競はず吾亦紅	久根美和子
中村和代選＝風死して崩落のビル睨む少年	奈都 薫子
仲寒蟬選＝秋の浜赤児のやうな不発弾	大野今朝子
島田洋子選＝鰯雲空一面が動き出す	三石なるみ
久根美和子選＝風死して崩落のビル睨む少年	奈都 薫子
青木澄江選＝青蜜柑畳の部屋の英語塾	斉藤文十郎

◇第30回吟行会「どくとるマンボウの青春」

9月16日 於・松本市あがたの森 22人参加

特選句

佐藤文子選＝熱き血の流るる大樹天高し	伊藤みち子
小林貴子選＝ヒマラヤ杉の枝はUの字秋日影	高山ゆう子
堤保徳選＝大望を抱きて育つ新松子	伊藤みち子
篠田洋子選＝マンボウと昭和返りや敬老日	林 正山
本田幸達選＝熱き血の流るる大樹天高し	伊藤みち子

◇会報103号発行 9月19日

◇会報104号発行 2025年2月20日

◇第39回定時総会 3月9日

- ・句会
- ・講演 講師は仲寒蟬氏「戦争と俳句」

(山崎和之)

福井地区

会長 中内 亮玄

◇第9回福井県現代俳句秋季大会

日時 令和6年9月28日(土) 14時

会場 福井市総合ボランティアセンター

参加者38名(互選による)

【特選】 直筆サイン『名句水先案内』

いつの日か手放すすべて遠花火

小林 史於

【入選】 直筆サイン『名句水先案内』

梅漬ける一粒ほどの平和かな

塩谷美津子

決断の眉を書き足す今朝の秋

前川 康子

漫殊沙華赤に少しの邪を秘めて

佐藤 節子

【佳作】

マニキュアの爪が真っ赤ぞ原爆忌

蜂谷 純江

白秋やだんだん軽くなる余生

横川 一子

句友とは得難いご縁小鳥来る

高石まゆみ

夏が過呼吸線状降水帯 斉藤ちず代

耐えぬいた試練の答えパリの夏

吉嶋みな子

桜桃忌昭和の恋の仕舞ひ方

津田 道代

真夜中の孤独のそばに鉦叩

中山 慶子

顔ほどのわたあめを手に大花火

前田 香葵

第9回福井県現代俳句秋季大会は、38名の投句者で開催された。投句数204句の中から、16句を選した。12時の受付開始から、約2時間弱で選句する。たっぷり時間はあると思っていたが、ほぼぎりぎりに終えた。中内先生が披講された。披講の合間には句全体の感想を述べられ、いろいろと勉強になった。特選、入選者には小川軽舟先生の最新刊「名句水先案内」が贈られた。和やかに表彰式も終え、今回の大会を機に新たに切磋琢磨して、次回お会いできる事を楽しみに閉会となった。

(河口花芯)

◇福井県現代俳句協会 総会

日時 令和6年2月22日(土) 午前10時

会場 福井市総合ボランティアセンター

出席者 22名

総会当日は、大雪注意報が発令されたにも関わらず、20名以上の方がご参加下さいました。交通機関にも影響が出たため、予定より20分遅れての開始となりました。前川康子副会長の開会挨拶の後、昨年度の逝去された平井幸子氏・佐々木義雄氏・久保ふみ子氏の3名に対し黙祷が捧げられました。議事進行は、まず中内亮玄会長が活動報告をされ、(現代俳句全国大会への参加報告、坪内稔典氏の講演「俳句の未来一」についても端的な解説を交えて伝えて頂き)、また昨年度の会計報告および会計監査が行なわれ、承認されました。

第9回福井県現代俳句協会賞は、勝山市の春木美智子氏に決定し、長年の句作の実績、役員としての活躍などの功績が称えられ、表彰が行われました。

その後、今年度の活動予定・予算案について説明があり、すべて滞りなく審議されました。以上の議事を終え、総会は無事に閉会致しました。

(高石まゆみ)

◇第8回福井県現代俳句春季大会

令和7年5月10日(土) 10時

福井市総合ボランティアセンター 参加者 34名

講演「俳句における型について」

講師 県現代俳句協会長 中内亮玄

*大会選考委員の7名による選考

風薫る5月10日、福井県現代俳句春季大会がハピリン四階のボランティアセンターで開催されました。顧問の小山柴門氏の挨拶から始まり、「俳句における型」の演題では中内亮玄会長自ら講師として講演。コンパクトにまとめられたお話ながら、世阿弥の風姿花伝から武蔵の五輪の書までに触れ、俳句の成り立ちや変化、芭蕉・蕪村・一茶・子規・虚子、そして兜太への繋がりと、俳句に対する主張の違いを解りやすく軽快に話されました。とても興味深く、1時間はあっという間で有意義な時間でした。高校生の投句もまじえた180句の事前投句の表彰式も、ウィットに富んだ副賞など、若い会長ならではの大会進行で、閉会まで中味の濃い時間を過ごすことができました。

(石田秋桜)

特選

種袋どれだけ句材こぼすかな

高石まゆみ 福井市

入選

シクラメン身を寄せて切る母の爪

前川 康子 福井市

露の臺耐える地球の息吹かな

白崎寿美子 福井市

佳作

言いかけて飲み込むことば風花す

斉藤ちず代 福井市

決めたのは自分春泥照り翳り

小林 史於 あわら市

リハビリの杖に残るや春の土

藤坪 憲雄 丹生郡越前町

夕桜淋しい夜はペンを持つ

蜂谷 純江 福井市

あきらめず胸から咲いた桜かな

高川 唯音 福井市(北陸高校)

如月のホテルに薄い紙マッチ

塩谷美津子 福井市

鳥雲に父は時々過去へ行く

中山 慶子 福井市

特別賞

夫と居て素直になれる夕桜

横川 一子 塩谷賞

笑い合う餡こが透けて桜餅

柄谷 せつ 高石賞

皇女にも恋する自由御所桜

佐藤 節子 前川賞

面取れば塾の先生里神楽

中田 良一 小林賞

風花や軽い白骨胸に抱く

青木かよ子 横川賞

夏まつり金平糖の量り売り

丘千 咲希 小山賞

(石田秋桜)

静岡地区

会長 山岸 文明

◇静岡県現代俳句協会俳句大会

令和6年10月26日(土)、静岡市「クーポール会館」

参加者：38名 応募者42名 投句数：136句

表彰：協会賞1名 会長賞1名 優秀賞2名

協会賞

ふつきれぬ思ひふらここ飛び降りる

阿久津明子

会長賞

草刈りて地球の少し丸くなる

後藤むつ子

優秀賞

全山の青葉五体を解き放つ
春夕焼やわらかく呼ぶ子の名前

滝浪さち子
渡邊 弘美

◇第15回静岡県現代俳句大賞

令和6年10月26日(土)、静岡市「クーポール会館」
参加者：38名 応募者22名(応募作品は一編10句)

表彰：大賞1名 準賞2名 奨励賞4名 奨励賞9名

大賞「箱舟の山」 後藤むつ子

春光の二筋三筋懺悔室
キリストを危めし剣冴え返る

準賞「女神(ファティマ)の手」越川 都

女神の手をあふれサハラ
の冬銀河ブルカ
の目澄むや囁り聴き分けて

奨励賞「らしく」 林 桂子

啓蟄や磁石に砂鉄蠢きぬ

◇静岡県現代俳句協会創立四十周年祝賀会

令和6年10月26日(土)、静岡市「クーポール会館」

参加者：40名 来賓・対馬康子現代俳句協会副会長

※ビュッフェ形式の食事会で親睦を深める。

四十周年記念合同句集配布。

◇静岡県現代俳句協会40周年記念合同句集『翔』

発行日：令和6年10月26日

参加者：63名

※1人10句1頁にて、この10年間の成果を掲載。

◇静岡県現代俳句協会東部文学散歩

令和7年4月19日(土)、三島市「生涯学習センター」

参加者42名 ※各自、楽寿園、源兵衛川周辺を吟行。2句出句で句会。

表彰：大賞1名 会長賞1名 優秀賞1名 佳作10名

大賞

小流れをひよい飛び越ゆ春日傘

遠野ちよこ

会長賞

清流へ開く勝手口夏近し

佐藤モト子

優秀賞

水に触れ木に触れ春愁とほくせり

つげ 葉子

佳作

湧水は富士の語り部風薫る

松下 允子

◇第41回静岡県現代俳句協会定期総会

日時：令和7年3月1日(土)、静岡市「あざれあ」

場所：静岡市 「あざれあ」

内容：①令和6年度事業報告・会計報告

②令和7年度事業計画・会計予算 他

参加数12名、総会終了後、1句会を開催。

※1句会互選結果(上位)

決意という程にはなくて初日記

東城 保子

寒気団来よと大富士でんと座す

つげ 葉子

たくさん笑えばよかった風の枯蓮

鈴木あさ子

もう少し行けさうな気も日脚伸ぶ

阿久津明子

◇会報発行 年2回

令和6年12月(137号)

令和7年5月(138号)

内容：巻頭随想、行事報告・予定、諸家近詠、
近詠一句鑑賞、エッセイ、わが俳句工房 等。

(花房 なお)

鳥取地区

会長 植垣 規雄

各地区活動報告(web)に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇月例句会 第391回から第402回まで原則毎月第一日曜日に開催した。

◇総会 令和7年2月2日(日)「高齢者福祉センター」に於て開催。
議題につき審議され承認。終了後2月例句会、続いて新年会を行なった。

◇会報発行 令和6年11月 第55号、令和7年5月 第56号を発行し、
本部事務局、全国各地協会、各図書館などへ送付した。

◇放哉忌行事 令和7年4月7日(月)鳥取市内興禅寺に於て、会員有志で尾崎放哉の墓域を清掃、献花のあと献句会を行なった。
市内の流派を超えた愛好者で毎年行っており、一般の方も歓迎している。

◇第43回中国地区現代俳句大会

令和7年6月22日(日)広島県担当(紙上句会)

〈鳥取県関係入賞作品〉

佳作賞 中村 哲眠る大地を春の水

平尾 隆実

(令和6年10月に「ねんりんピック鳥取大会」が開催されたため、秋の吟行句会を6月に実施済である)

(岡 みずき)

徳島地区

会長 上窪 青樹

各地区活動報告(WEB)に掲載 令和6年7月1日～令和7年6月30日

◇例会実施日 令和6年9月29日(日)

実施場所 徳島市 県立文学書道館 参加者 18名

色鳥のおのが影ごと眞水のむ

今岡 直孝

芋虫は月光を食む夢を食む

仲 空

けふからを余生としたり新豆腐

青木 慧

歳時記を開いて秋を取り出しぬ

山之口ト一

◇忘年句会 実施日 令和6年12月1日(日)

実施場所 徳島市 阿波観光ホテル 参加者 34名

冬の蝶ゴッホの耳のように閉ず

伊賀 信子

ふくろふの啼くや右脳の騒ぐ夜
レコードのノイズしゃりしゃり憂国忌
熱々の焼薯食うて写楽顔
木の実踏むたび思い出が潰れゆく
少年の会話は単語枇杷の花

松原 雅子
山之口ト一
仲 空
上窪 青樹
向井みちこ

◇会報発行 第12号 令和7年3月1日

発行内容 令和6年度の活動記録等

会員数 66名

◇総会及び吟行句会 実施日 令和7年3月30日

実施場所 名西郡佐那河内村 嵯峨峡「渡月」 参加者 30名

石を噛む太き走り根桜冷え

松家 京子

花冷えや仁王の指の艶めきぬ

太田 博美

山腹の一戸に桜明りかな

松原 雅子

まんさくや村に一軒なんでも屋

高木 閑人

石磨く水清らかや匂鳥

魚井 遊羽

風の沙汰たちまち狂ひ紅しだれ

長町 淳子

諸喝采揺れよ山には大風車

西池 冬扇

◇例会実施日 令和7年6月30日

実施場所 徳島市 県立文学書道館 参加者 18名

白鷺のふはりと地球蹴飛ばせり

明日 侖

髪洗ふ指に確かな頭蓋骨

田村 素秀

鼻歌はジョン・レノンなる白日傘

安曇 統太

◇その他の活動

*第21回夢道忌俳句大会 令和6年10月19日 於：藍住町総合文化センター

土塁のみ残る城あと秋の風

原田 厚子

虫の音の絶えて貧しき夜となりぬ

山之口ト一

月光の波に洗われ濡標

田村 素秀

漱石の猫迷いこむコスモス園

山田 絵里

(上窪則子)

福岡地区

会長 福本 弘明

◇福岡県現代俳句秋の吟行大会

令和6年10月13日に北九州市小倉の小倉城、勝山公園界隈での吟行大会を北九州市立生涯学習総合センターで開催しました。当日参加者30名。

天賞 木の実落つ追憶ひとつまたひとつ

川澤 紀子

地賞 曼珠沙華空の青さを押し上げる

岩井三津子

人賞 なるやうにならぬものなり木の実落つ

森 さかえ

秀逸 銀杏を踏んであとさき考える

山本 悦子

雀蛤となる北署を右に折れただけ

冬のおこじよ

秋の空みんな死ぬからみんな好き

堀あいだほ

色変へぬ松の根太し先師句碑
ご城下は多国籍なり秋ひと日
木の実まだ降らず和太鼓打ち鳴らす

原田 俊子
夢野はる香
片山 亀夫

◇福岡県現代俳句協会会報 66号

1 1月に発行 吟行大会報告、会員の投句、句評など。

◇福岡県現代俳句協会総会ならびに福岡県現代俳句大会

3月9日に小倉リーセントホテルで開催。講演は福本弘明会長による「久女の小倉」参加者は43名

大会賞

かあさんはいないしさくら吹雪だし
毎日新聞社賞

小郡市 柴田 美都

抽出しの中の無防備多喜二の忌
月刊「俳句界」賞

福岡市 小倉 班女

青空を引つ掛けながら糸編む
優秀賞

太宰府市 山本 則男

雪だよと言われ好きだよと聞こえた
空き家にも刻む時ありカンナ咲く
笑顔からこぼれるものを春という
うかうかと女に生まれ芹なづな
一月の貌して坐る美容院

北九州市 竜口 啓子
糟屋郡 富永 素光
宗像市 三船 熙子
太宰府市 田中 葉月
北九州市 増本加津子

佳作賞

大胆になる手袋を嵌めてより
海鼠食うて言葉の凝りをほぐしけり
大いなる黙でありけり寒卵
靴下に穴冬晴れの空である
冬薔薇の堅き蕾や妻ねむる
人も村もゆったりと老い木守柿
蝶生まれ身元不明のままである
どの足も落葉を踏みてふるさとへ
台湾へピンクで記す初暦
たらればを笑顔にくるむひなたぼこ
空白の増えし余生や初暦
エジプトを出てからのこと日脚伸ぶ
木の芽時そんな理由もあるんだと
古炬燵父がヒーローだった頃
鱈酒や悪口言ってしまうなさい
山茶花や世界は狂いたがっている
ホチキスの針一列や冬ざるる

福岡市 土田 利子
福岡市 大瀬益太郎
福岡市 木村 厚子
北九州市 黒川 智子
下関市 樋口和人志
北九州市 金子智恵美
みやま市 森 さかえ
福岡市 長谷川隆史
久留米市 梶村 こう
北九州市 岩坪 英子
北九州市 中村 重義
北九州市 上野 一子
北九州市 弘友 淑子
北九州市 樺山 郁子
北九州市 鋤塚 聰子
苅田町 堀あいだほ
北九州市 岩井三津子

◇福岡県現代俳句協会会報 67号

5月に発行 大会の報告と会員の投句、句評など。

(森さかえ)

宮崎地区

会長 山口木浦木

各地区活動報告（WEB）に掲載 令和6年7月1日から令和7年6月30日

◇地区総会

令和7年 2月23日 宮崎市 参加者23名

◇俳句大会

新春句会

令和7年 2月23日 宮崎市 参加者26名

春の野へ古希の男が荷をおろす

服部 修一

笑っても泣いてもひとり大晦日

鈴木 節花

一本の冬木一行の詩のごと

佐藤 聡美

生きてみると寒鯉の吐く泡一つ

早稲田りょう子

誌上句会

令和6年 10月31日 参加者21名

冬北斗我に確かな生命線

長友 巖

人生はジグソーパズル秋の空

辻 和子

鴟高音ローン完済したような

吉村 豊

◇吟行句会

令和6年11月4日 宮崎神宮 参加者9名

玉砂利に寝っ転がる子七五三

亀田りんりん

金風に木根群れ立つ落羽松

早川たから

柿買うて菊まで買うて吟行会

藤 野々子

◇会報発行

第62号 令和6年11月30日

第63号 令和7年 2月28日

(吉村 豊)

沖縄地区

会長 上地 安智

◇第7回通信俳句会（令和6年9月）

旧盆や乱高下なき紙銭焚く

上江洲萬三郎

新北風やなべて海向く島の墓地

宮里 暁

◇第8回通信俳句会（令和7年3月）

春風や墨ふくいくと命名紙

渡嘉敷敬子

ふらここや世界は左右に揺れやまず

鈴木 涼花

◇第23回定期総会（2月16日 出席12名）

◇令和7年新春俳句会（2月16日 投句14名）

島桜多事多難とて島に棲む

金城 悦子

◇第23回沖縄忌俳句大会（6月1日 投句58名 241句）

大会大賞：人の世は愚を繰り返し沖縄忌

本田 巖

県知事賞：洞窟^{ガッ}の闇裂けて噴き出す黒揚羽

伊波とをる

会長賞：八十年^{やそとせ}の祈り重ねる沖縄忌

小手川とし